

# 株式会社フコク 第68回定時株主総会

## 事業報告

### ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った  
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ  
今までに無い価値を提案していきます



Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ただいまより第68期事業報告についてご報告いたします。

## 当事業年度の事業の状況

### 2020年度期初の状況

#### ■ 世界経済

新型コロナウイルス感染症拡大により  
各地で移動制限や消費の喪失

#### ■ 自動車業界

工場の一時的閉鎖や大幅な減産



#### ■ フコグループ

**売上高30%減** (=損益分岐点売上高  
比率70%)を想定した経営へ切り替え。

⇒ 「**危機感**」と「**やり抜く覚悟**」を  
全社員と共有。

**体質改善活動**を更に強化。

従業員の皆様へ  
2020年4月6日  
小川 隆

新型コロナウイルスが猛威をふるっている。特效薬もワクチンもなく  
外出の規制と他人との接触を避けることしか身を守る手段がない。

多くの街は封鎖され、消費は低迷し、自動車の需要は消失してしまい、  
全世界でカーメーカーの稼業も停止する事態に陥っている。

深刻なのは、ウイルス感染の収束時期が予測できないことです。  
終わらない生産停止が当面続くことを覚悟しなければなりません。

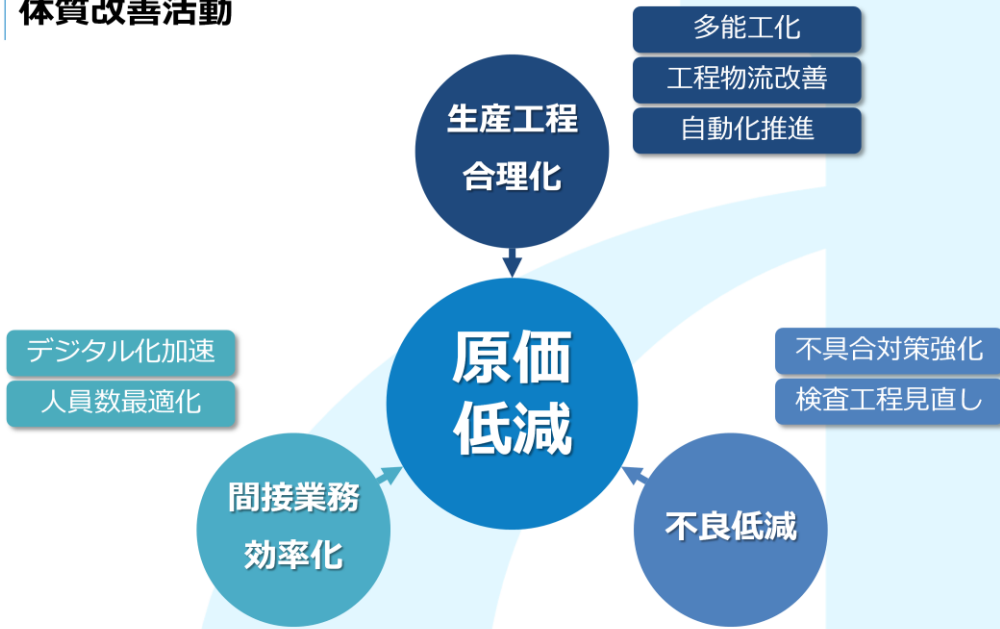
フコも減産や操業の一時停止を余儀なくされている。この事態が  
長引けば、倒産への道を辿ることになるかもしれない。  
そこで、生き残るために以下の3つの目標を設定します。

当期の事業環境について、2020年度の期初から、新型コロナウイルスの世界的な拡大によりまして各地でロックダウンと呼ばれる移動の制限や消費の喪失、また自動車産業におきましても工場の一時的閉鎖や大幅な減産を余儀なくされるなど、甚大な被害を受けました。

まさに、いつ終わるか分からない先行き不透明感が続く環境下で、当社においては、生き残りを賭けて年間売上高が30%減少しても赤字にならない経営に専念する決断をいたしました。

そして、社長自らの決意を全社員に掲示し、危機感を共有しながら全社一丸となった体質改善活動を開始いたしました。

## 体質改善活動



第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

体質改善活動の内容につきましては、工場などの生産現場においては、従来以上の不良製品の撲滅や生産工程の合理化に徹底的に取り組む一方、本社などの間接部門においては、デジタル化の加速や事務部門の効率化を進める等、部門を超えた聖域なき改善に取り組みました。

## 当事業年度の事業の状況

### グローバルでの感染症対応

#### ■ 不足物資の国内外融通

(マスク・体温計等)



#### ■ 全拠点での検温・消毒



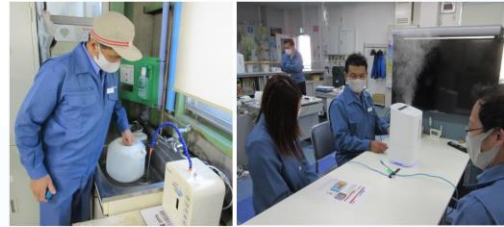
検温



消毒

#### ■ 微酸性次亜塩素酸水、各工場へ配布

(日本)



微酸性次亜塩素酸水生成中

超音波噴霧器で噴霧

- ・超音波霧化振動子の開発のため所有する次亜塩素酸水生成器を活用。入手困難な消毒アルコール代替として各工場へ配布

微酸性次亜塩素酸水とは

- ・微酸性かつ、僅かな塩素濃度に調整された水
- ・細菌、ウイルスへ非常に高い殺菌効果を発揮し身体への安全性も高い

第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2020年度は新型コロナウイルスと向き合い続けた1年でもありました。

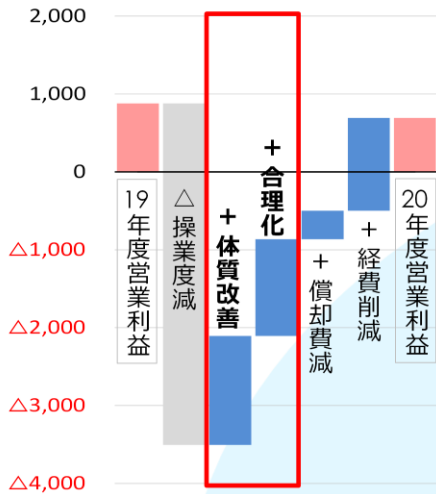
フコクのグローバルネットワークを駆使した取組みとして、まずはマスクの調達を最優先事項として不足地域へ配布するなど、グローバル規模での従業員安全確保に努めました。

また、超音波霧化振動子の開発過程で所有していた次亜塩素酸水生成器を活用した、殺菌効果の高い微酸性次亜塩素酸水を各工場へ配布することで、感染リスクの最小化にも取り組みました。

## 当事業年度の事業の状況

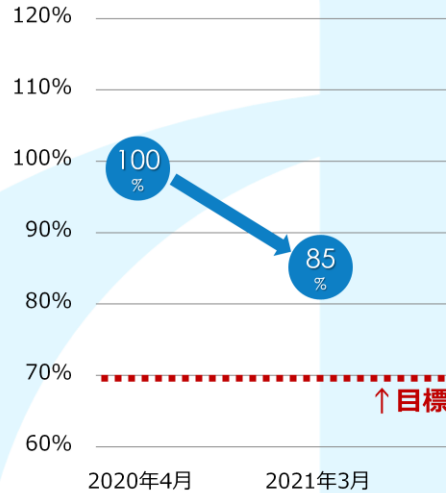
### 連結営業利益\_増減要因

(単位：百万円)



### 損益分岐点売上高比率

単体/2021年3月実績



第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

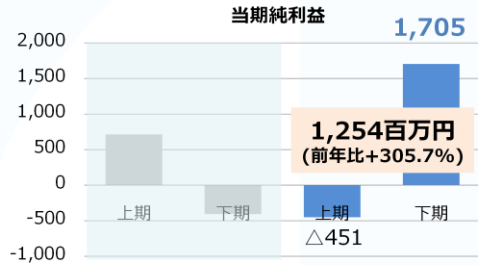
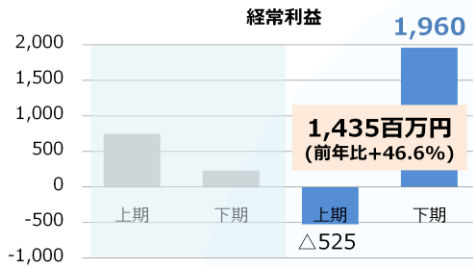
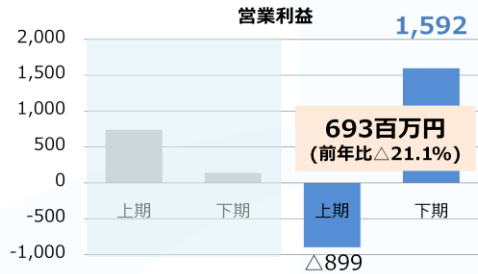
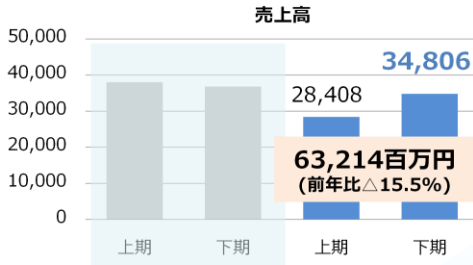
こうした改善活動の結果、感染症による操業度損が40億円強ありましたが、体質改善や合理化・経費削減等、聖域なき改革を全社一丸となって展開した結果、この操業度損をほぼカバーすることができ、前年水準には届きませんでした。営業利益で黒字を確保することができました。

損益分岐点売上高は改善を進めているものの、2021年3月時点で85%に留まっております。目標である70%に向けて今後も活動を継続してまいります。

# 当事業年度の事業の状況

## 経営実績推移（連結・半期）

■ 2020年3月期 (単位：百万円)  
■ 2021年3月期



これらの結果、2021年3月期の経営実績推移は、下期 売上が急回復したところに上期にスタートした体質改善等の効果が表れて、営業利益は6億9千万円を確保、また経常利益・当期純利益は増益となるなど、まさにV字回復を記録いたしました。

## 財産及び損益の状況

(単位：百万円)

	第65期 (2018年3月期)	第66期 (2019年3月期)	第67期 (2020年3月期)	第68期 (2021年3月期)
売上高	75,224	77,949	74,839	63,214
経常利益	2,760	2,107	979	1,435
親会社株主に帰属 する当期純利益 または純損失	△243	△2,690	309	1,254
1株当たり 当期純利益 または純損失(円)	△14.72	△162.45	18.67	75.69
総資産	70,367	67,584	65,246	63,817
純資産	36,178	32,036	31,941	32,321

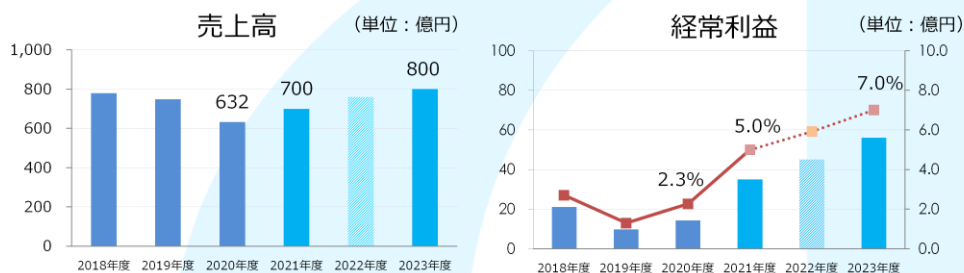
第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

第68期の連結業績はご覧の通りです。

1株当たり当期純利益は75.69円と過去4年間では最大を記録しております。

## 主な数値計画

	実績 (2021年3月期)	計画 (2022年3月期)	目標値 (2024年3月期)
連結売上高	632億円	700億円	800億円 <small>※新製品比率10%</small>
経常利益率	2.3%	5.0%	7.0%
ROE	4.2%	6.0%	8.0%
連結配当性向	29.1%	30%	30%



第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、中期経営計画についてご説明申し上げます。

当社は2021年2月に三ヶ年の中期経営計画を策定しました。

今回は2020年度下期の実績をベースとした数値計画を策定いたしましたが、3年後の2024年3月期には連結売上高800億円、経常利益率7%、ROE8%、連結配当性向30%を定量目標として取り組んでまいります。



## 2022年3月期 業績予想

### 業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期 実績	2022年3月期		
		予想	前年増減額	前年増減率
売上高	63,214	※ 70,000	+6,786	+10.7%
営業利益 (売上高対営業利益率)	693 (1.1%)	3,370 (4.8%)	+2,677 (+3.7pp)	+386.2%
経常利益 (売上高対経常利益率)	1,435 (2.3%)	3,500 (5.0%)	+2,065 (+2.7pp)	+143.9%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,254 (2.0%)	2,200 (3.1%)	+946 (+1.1pp)	+75.4%

※ 収益認識基準を適用済み  
※ pp=パーセンテージポイント

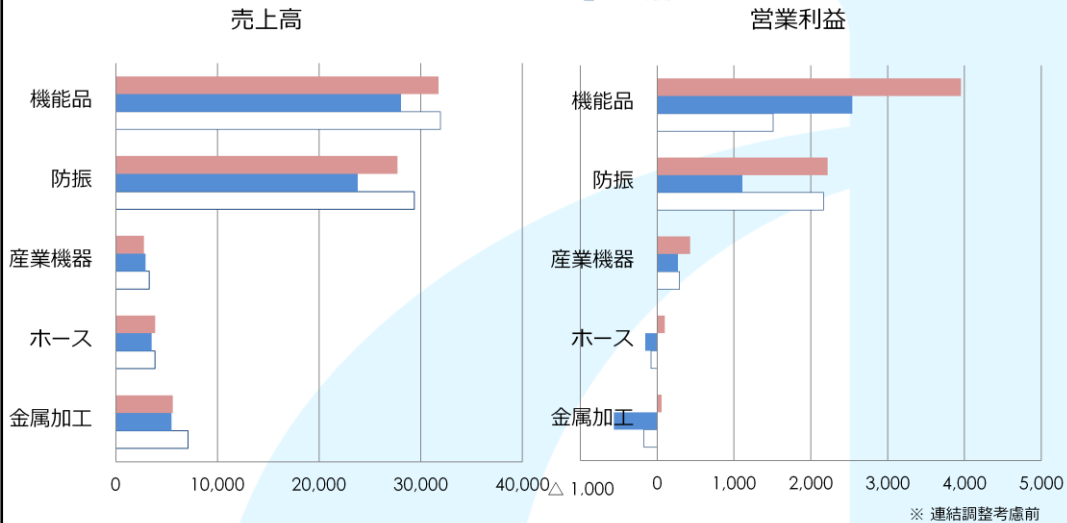
売上回復に加え、体質改善の効果により増益を見込む

第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

単年度計画である2022年3月期の連結業績予想はご覧の通りです。  
今年度は、受注回復と拡販により売上高は700億円を目指します。引き続き、損益分  
起点売上高の引き下げ努力を継続することで、営業利益33億円、経常利益35億円、  
当期純利益22億円を目指します。  
現時点においても、体質改善の強化を背景に足元の収益力は更に強固なものになり  
つつあり、中期計画・年度計画共に順調なスタートを切っております。

# セグメント別・地域別の状況

## セグメント別



すべての事業セグメントで黒字化を目指す

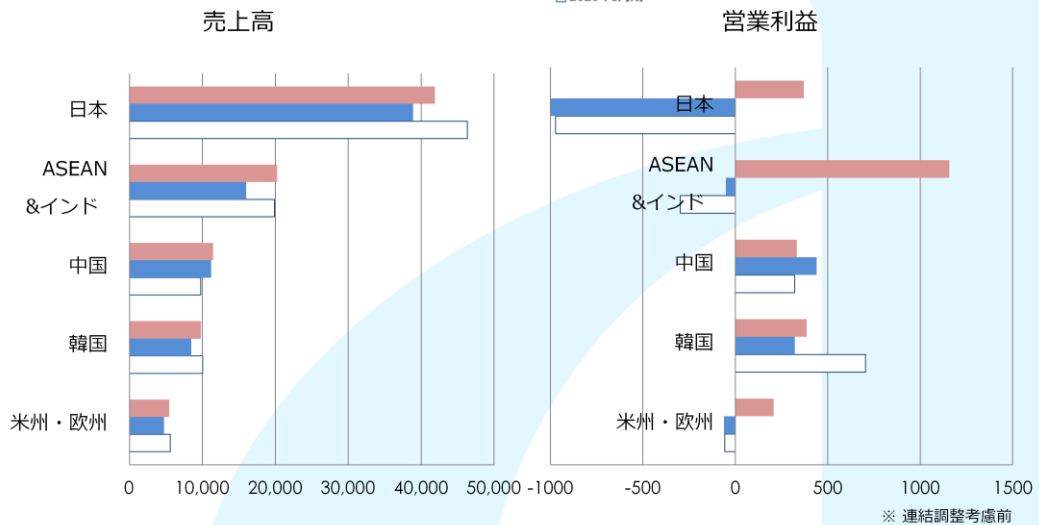
事業セグメント別の状況はご覧の通りです。

グラフは、2020年3月期から2022年3月期までの推移が分かるように表示しており、上から順に、機能品・防振・産業機器・ホース・金属加工と5つのセグメントで構成されています。

2021年3月期において、金属加工事業とホース事業におきまして赤字計上となりましたが、両事業共、フコクグループを挙げた経営改善活動に取り組んでおり、2022年3月期は全てのセグメントで営業利益黒字化を目指してまいります。

# セグメント別・地域別の状況

## 地域別



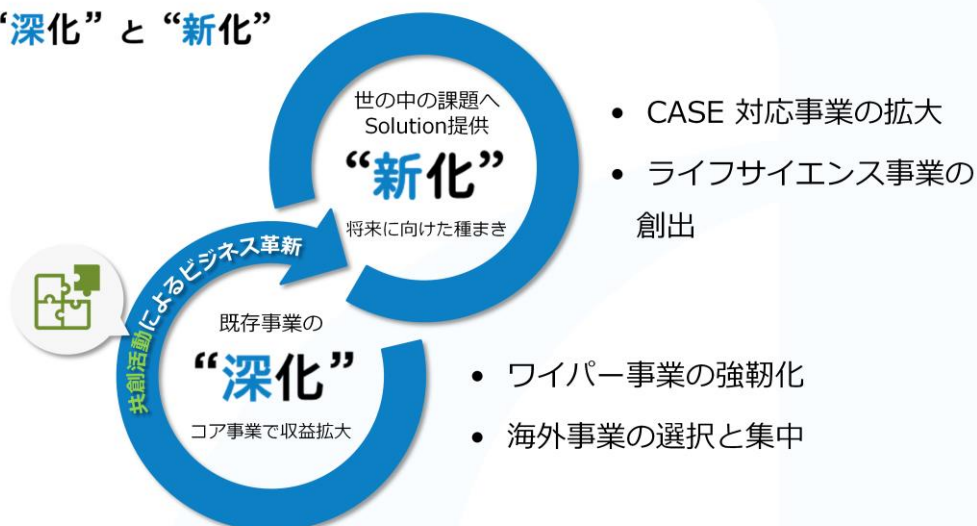
すべての地域で黒字化を目指す

次は、地域別の状況となります。

事業セグメント別と同様、年度ごとの推移で示しています。ご覧の通り、今年度は、全地域での黒字化を目指してまいります。

## 計画骨子

### “深化”と“新化”



第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

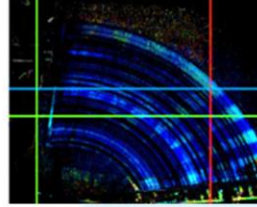
中期経営計画の計画骨子としましては、  
既存事業を深掘りして更なる収益拡大をはかると同時に、それで得られた利益をベースとして、将来に渡って世の中の課題にソリューションを提供するための種まきを行います。  
それらを、『深化』と『新化』という言葉で表現いたしました。

## 中期経営計画

### 既存事業の“深化”

- シミュレーション深化
- ものづくりの変革(無人)
- 情報処理を活用した  
材料開発(MI)による高寿命化

※MI=Materials informatics



ワイパー水膜解析



製造工程の無人化

### 海外事業の選択と集中

- 重点地域の経営自立
  - ・ アセアン+インドエリア、中国エリア
- アライアンスの活用
  - ・ 欧州エリア



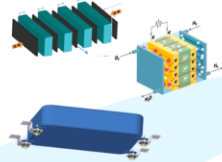
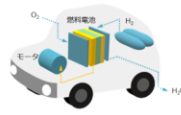
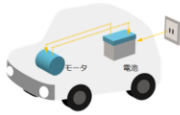
既存事業の深化におきましては、特にワイパー事業はフコクのコア事業でもありますので、更なる強靱化を進めてまいります。そのためにもシミュレーション技術の深化と開発期間短縮、最適形状の提案により効率的な事業拡大を目指すと共に、製造工程の無人化や情報処理を活用した材料開発にも注力してまいります。

また海外事業では、今後も売上拡大が見込めるアセアンエリアや中国エリアを重点エリアに設定し、売上・利益拡大につとめてまいります。一方、苦戦が続いている欧州エリアにおいては、アライアンスの活用により製品競争力を高め、グローバルでの事業拡大を狙います。

## 中期経営計画

### “新化” … 将来に向けた種まき

- 電池パック(防振)
- 燃料電池(シール)
- ECU(防振)



- 液体培地
- 細胞培養器材



- 細菌感染症用検査キット



- 化粧品原料



- 空間除菌霧化装置



CASE対応製品やライフサイエンス分野でビジネス拡大

第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

将来に向けた新化におきましては、自動車業界においてはCASE時代への変化対応として、防水・防塵・防振といったゴムの基本性能を発揮できる領域での要望に応じ、技術開発体制を更に強化してまいります。

また、医療分野や生活分野といったライフサイエンス事業領域での商品化をさらに進めてまいります。

## 中期経営計画

### カーボンニュートラル対応

- 環境プロジェクト部門を新設し、ゴム廃棄物、CO2排出量を削減

### DX対応

- DX戦略課を新設。基幹システムの全面刷新、生産性向上を推進



第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、ESGへの取組みとして、カーボンニュートラル対応として環境プロジェクト部門を新設し、ゴム廃棄物やCO2排出量を削減する取り組みを行ってまいります。またDX対応におきましても新組織を組成し、基幹システムの全面刷新や生産性向上を推進してまいります。

## 株主還元方針

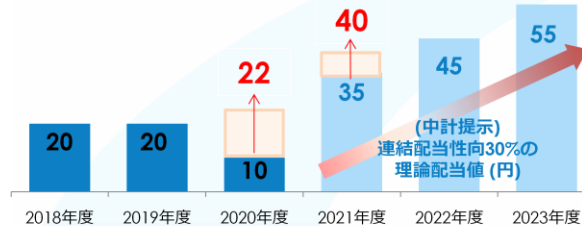
### 配当政策の基本方針

- 連結配当性向30%を目安に安定配当を継続（1株当たり年間20円を下限※）

※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 1株当たり配当金

- 2021年3月期：連結配当性向30%前倒し実行、直近予想より12円増の22円予定
- 2022年3月期：連結配当性向30%に準じ、前年差18円増の40円を計画



### 株主優待廃止

- 株主還元は、配当金での還元がより株主様の利益に資するものと判断し、株主優待制度は廃止とさせていただきます。

第68回定時株主総会 株式会社フコク(東証第一部:5185) 2021年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

続きまして、当社の株主還元方針についてご説明いたします。

2021年2月に、連結配当性向30%を目安とした配当を基本方針とする配当政策を公表させていただきました。

配当金につきましては、2021年3月期は2020年度の業績回復を受け、連結配当性向30%の方針を当初より前倒して実行し、期末配当22円を本総会にお諮りしております。また、2022年3月期におきましては、前年差18円増配の年間配当40円を計画しています。

尚、株主優待制度につきましては、配当金で還元する事が株主様の利益に資すると判断し、廃止とさせていただきます。



### 株価水準の適正化

## 「PBR = 1.0倍」を目指す

- 2020年度の一株当たり純資産：1,814円33銭  
2021年6月28日の終値：994円  
⇒ **PBR = 0.5倍**に留まる
- 最低1.0倍以上の適正水準を目指し、  
中期経営計画の確実な実行と、経営情報の積極的な発信を行う

最後に、当社の株価水準についてですが、昨日の終値は994円であり、2020年度実績の1株当たり純資産1,814.33円で計算しますと、PBRは0.5倍程度に留まっております。最低でも、1.0倍以上の適正水準を目指しまして、中期経営計画の達成による利益確保と、お約束している配当を実行してまいります。加えて、株主様含む全てのステークホルダーの皆様へ積極的な経営情報の発信を行ってまいります。引き続き株主の皆様からのご支援をよろしくお願い致します。以上を持ちまして第68期事業報告とさせていただきます。